



かじき木だより

子供の成長と連携



校長 森永 忠秋

現在、学校にはさまざまな連携が求められています。曰く「家庭との連携」曰く「開かれた学校」等々。子供達を立派な人材として育てあげるため、家庭は家庭の、学校は学校の役割を分担して果たすことが求められているのです。ですから家庭での基本的なしつけがなされないまま成長した子供達が加治木高校に入学したならば、先ず「清新浣剤・質朴剛毅・堅忍不拔」を校是とする本校の気風に驚くことになると想いります。他の高校から見ると、しないに等しい加治木高校の生活指導。そして部活動に取り組みながら成果を上げている学習指導がなさ

り前とする先輩の姿を見て、自分のことを自分でやることのできない甘えの残つた自分ではないことに気づかされるでしょう。

「開かれた学校」についても、保護者や地域の方々の目と意見を得て、学校が閉鎖的にならないようによろとする考えでもあります。しかし、「開かれた学校」についても、保護者や地域の方々の目と意見を得て、学校が閉鎖的にならないようによろとする考えでもあります。しかし、「開かれた学校」についても、保護者や地域の方々の目と意見を得て、学校が閉鎖的にならないようによろとする考えでもあります。

しかし、この「加治木だより」に所載されていますようにお陰さまで、本校には多数の保護者の方がPTAの仕事などで日常的に来校されています。保護者の協力で学校行事等が円滑に実施されるとともに、適度な緊張感が学校にもたらされていると言えるでしょう。また、本校に期待を寄せる方々からお褒めの言葉や注意の声も寄せられます。さらには、龍門講座や創立記念講演等における同窓会や地元企業等の御協力による職場訪問など、学校だけでは担いきれない分野、学校の



PTA会長 下園 寿秋

みなさんへの幸福論



ある日私は、有名な脳科学者である茂木健一郎さん(愛称は「茂木パパ」)

の講演を聴く機会に恵まれました。実は当初の演者はこれもまた有名な教育評論家の尾木直樹さん(愛称は「尾木ママ」)の予定でしたが、尾木ママは腰を手術して来られなくなつたとのこと。代打として、友人の茂木パパが演者に抜擢されたのでした。それはさておき、茂木パパの話す内容は大変素晴らしいです。要約すると、次のようなことでした。

「これがあるから幸せ、これがないから不幸、これになれたから幸せ、これになれなかつたから不幸」ではない。「これ」にこだ

わつしまう事こそが不幸である。他人と自分とは違う。欠点も含め自分の個性を理解し、自分ができないと思っていたことができたときに最大の幸福を感じ、ドーパミンという神経伝達物質が出て、脳は成長する。年齢と全く関係ないので、いくつになつても苦手な事に挑戦することが大切である。

例として、ハリウッド俳優トム・クルーズさんについて触れ、彼は失認症という障害がありながら、彼はそれを個性として認め、その代わりに人の話を聞いて、その場で全てを理解し、記憶するという能力が発達したとのことです。ということは、すでに50年を越えて生きている私でも、挑戦することで十分成長できる可能性はあると感じました。話は変わりますが、先日開催された鹿児島

第39号
2016.3.1
加治木高等学校
PTA発行

〒899-5214
鹿児島県姶良市加治木町
仮屋町211番地

| | |
|-------------------|------|
| 生徒指導・保健・進路指導の各部より | P2 |
| 学校行事の感想 | P3 |
| 一日遠行・卒業に寄せて | P4・5 |
| 卒業生へましの言葉 | P6 |
| 部活動大会入賞記録 | P6 |

弱い分野において様々な方に協力を仰いでいます。

自ら考えて行動することを当たり前にする先輩の姿を見て、自分のことを自分でやることのできない甘えの残つた自分ではないことに気づかされるでしょう。

その結果、学校は受験指導や心身に不調のある生徒への対応に力を傾注できます。学校と保護者・地域の連携は、馴れ合いではなく

節度と緊張感の中で、可能性を秘めた生徒の成長の糧として還元していくのです。

志操が高く、気迫に満ちた眞の加治木高校生はこうして大勢の人々に見守られることで育まれていくのです。先輩である海音寺潮五郎氏が「人間美学」の言葉を残していますが、子供達は、人々の愛情を受け、見守られ、教えを受けることで健全に成長し、やがてその人なりの美学を見いだすことができるのです。その手助けのために私達は、それぞれの立場で力を尽くしながら、同時に連携を深めなくてはなりません。

県PTA研究大会で提供された話です。アメリカのある学者が予測したことですが、今後10~20年の間に、人間の仕事の47%はITによる自動化あるいはロボットが行うとのことです。では、人間は何を仕事としているのでしょうか? 予測ではIT関連を中心とする

今の時代には全く存在しない職業に6割の人々が就くだろうとのことです。

みなさんはどう思いますか? 私には、そのような未来は想像もつきませんし、少々戸惑いました。ですが、茂木さんに従えば、自分の個性を理解して挑戦していけば、まわりの協力を得ながら達成でき、それだけ幸福を感じながら成長して生きるのではないかと思いました。蘇則が本当にそうなるのかどうかは別として、将来の社会は、みんなさんが担います。自分を理解し、様々な挑戦しながら、幸福に生き抜いていただきたいと思います。

「議を言うな」

生徒指導部 児玉 活也

先日、ひょんな事から鹿児島弁の話になりました。最近は、鹿児島弁をあまり聞かなくなつたよね、と。私が高校生の頃は、先生方がよく「議を言うな」とおっしゃっていました。よく、「文句を言うな」という意味に間違えて理解されていますが、それなら「ふてこつ言うな」の方だと思います。「議を言うな」は理屈ばかり並べるのではなく、行動して見せなさい。という意味です。

か？ その行動は どの辺がものでしょ

ねることが、とんでもないところへ行くた
だひとつ「の道」というイチローさんの言葉
が掲げてありました。昔から似たような言
葉は数多くあります。経営の神様、松下幸
之助さんは「成功は小さい努力の積み重ね」
と言つていますし、ことわざなどでも、「塵
も積もれば山となる」「雨垂れ石を穿つ」「口
一マは一日にして成らず」「千里の道も一
歩から」と、並べればきりがありません。
なぜ、ここまでいろんな人がいろんな言
葉を使って同じ事を伝えようとするのでし
ょうか?そこに真理があるのでないでし
ょうか。

イギリス人初のツール・ド・フランス優勝監督のブレイルス・フォードさんは「すべての行動において1%の改善に取り組むことで、目標を達成しました。例えば、「最高の眠りを得るための枕を探す」「効果の高いマッサージジエルを試す」「感染症を予防する最適な手洗い方法を指導する」など、ほとんどの人が気付かないことに取り組んだのです。矢印→の傾きが、上に一度傾くのと、下に一度傾くのは小さな矢印で

そのような中で本校独自の歯科保健事業は、歯の健康ばかりなく、生涯を通じて健康的に過ごすためのヘルスプロモーション

きれいな歯を守ろう

保健部
松下
直子



加治木高校生の誇ることはたくさんある。その中の一つが歯のきれいな生徒が多いということ。永久歯のむし歯が1本もない生徒は482人(51%)むし歯治療済みの生徒は360人(38%)。残りの約11%がむし歯のある生徒で、全国平均の22.6%と比較すると半分以下である。入学時の状況はもつと良いので、やはり家庭での意識が高く、小さい頃から歯磨きや定期検診などのケアがきちんとなされている結果だと思われる。

現役生は伸び盛りで、まだ一〇〇%の力を発揮しきれなかつたり、明らかに勉強不足であつたり、体調管理も大事、いざれにしても不本意な形でセンター試験を終えた生徒たちも多い。受験は華やかなことばかりが話題になるが、その裏にはたくさんの悔い涙が隠れている。その後に続いた志望校決定も大変である。選択肢は二つ。通る大学に進むか、行きたい大学を目指すか、考え方の結論ならどちらを選択しても間違いない。本当のところ、未来は可能性に

ルーテイン

進路指導部 福元 裕樹

毎年一月、三年生は試験の中にいる。ヤンパー試験である。今年は一月十六日(土)十七日(日)の二日間、鹿児島大学郡元キャンパスで三〇〇余名が受験した。この結

現役生は伸び盛りでまだ一〇〇%の力を発揮しきれなかつたり、明らかに勉強不足であつたり、体調管理も大事、いずれにしても不本意な形でセンター試験を終えた生徒たちも多い。受験は華やかなことばかりが話題になるが、その裏にはたくさんの悔い涙が隠れている。その後に続いた志望校決定も大変である。選択肢は二つ。通る大学に進むか、行きたい大学を目指すか、考えた末の結論ならどちらを選択しても間違いない。本当のところ、未来は可能性に

の電車やバスでの過ごし方、机上の文房具の配置、帰宅して勉強を始めるまでの生活リズムなど、実はあらゆる場面で使える。学力向上につながるこだわりのスタイルを見つけよう。ところで、私には人に言えないと「ルーティン」があつた。試験の朝、緊張のためかよくおなかを壊し、それがいつも嫌だった。ところがある時おなかを壊した日の試験成績が良いことに気づいた。それ以来、試験の朝はトイレでガツツボーラー！高校時代の懐かしい思い出である。

プロセスを学ぶ機会として成果を上げている。平成15年度から始まつたこの事業は、学校歯科医と歯科衛生士が中心となり総合的な学習の時間に検診・講話・実技指導と系統的に行つていている。具体的な内容は、通常の検診に歯肉の検査を加え現状を把握した上で一年生にはブラッシング指導と歯科講話を、二年生にはチョコレートを食べて唾液の緩衝能を調べる実習等を行つて指導に役立てている。三年生になるとむし歯の治療率が上がつてくるのは、このような取組の結果であると思う。また生徒保健委員会が「歯と口の健康週間」等に標語やポスターを作成し掲示することも、生徒の意識を高めることに繋がつていると思う。きれいな歯を維持するための環境は整つている。あとは自らが良い行動を選択し実践するのみである。

ルーテイン

進路指導部 福元 裕樹

毎年一月、三年生は試練の中にいる。センター試験である。今年は一月十六日(土)、十七日(日)の二日間、鹿児島大学郡元キャンパスで三〇〇余名が受験した。この結果に満足できる生徒は何人いただろうか。現役生は伸び盛りでまだ一〇〇%の力を発揮しきれなかつたり、明らかに勉強不足であつたり、体調管理も大事、いずれにしても不本意な形でセンター試験を終えた生徒たちも多い。受験は華やかなことばかりが話題になるが、その裏にはたくさん悔し涙が隠れている。その後に続いた志望校決定も大変である。選択肢は二つ。通る大学に進むか、行きたい大学を目指すか、考えた末の結論ならどちらを選択しても間違いない。本当のところ、未来は可能性に溢れている。

気になる数字がある。過去四年間の宅習時間の記録である。加治木高校生が行きたくないとする大学は高い学力を要求する。その学力は授業だけで養うことはできない。受験に通用する学力は、膨大な学習の積み重ねによつてはじめて身につく。先輩たちの実績は平素ひたすら鍛錬に努めた結果であった。それなのに、現役生の宅習時間が減り続けている。加治木のチカラが失われようとしている。

学習に臨む態度を見直して欲しい。最初に「大学探し」、目指す大学をしつかり決める。ただの憧れではなく、どうしてもそこに行きたいと強く願う大学を探す。自然と目標とする学力も決まる。次に、「卒塾」自ら考え自ら学ぶ大人の学習をする。他力本願でなく、自ら切り開く態度が大切である。分からぬことがあつたらすぐ質問ではなく、まず自分の頭で考える。考え方だけではなく、自分で課題を探して学習する時間はいくらあつても足りない。さらに「脱スマホ」、スマホは敵、特にSNSは、集中力を妨げ勉強への関心も削る。わずかな利用でも、その悪影響は計り知れず大きい。最近これだとと思ったものがある。野球のイチロー、ラグビーの五郎丸や相撲の琴櫻菊で話題になつた「ルーテイン」、登校時の電車やバスでの過ごし方、机上の文房具の配置、帰宅して勉強を始めるまでの生活リズムなど、実はあらゆる場面で使える。学力向上につながるこだわりのスタイルを見つけよう。ところで、私には人に言えないと「ルーテイン」があつた。試験の朝、緊張のためかよくおなかを壊し、それがいつも嫌だつた。ところがある時おなかを壊した日の試験成績が良いことに気づいた。それ以来、試験の朝はトイレでガツツボーズ！高校時代の懐かしい思い出である。

平成27年度第19回 一日遠行

体育科 前野 忠義

今年度は、昨年まで道路通行止のため行くことが出来なかつた竹山ダムに三年ぶりに戻り、色彩豊かな紅葉、鳥のさえずり、澄んだ空気を楽しみながら遠行を行うはずであつた。

ところが、十一月十三日（金）当日の朝は早朝から雨。実施も危ぶまれたが、一部コースを変更しての開催ということになつた。小雨が降る中、予定より少し早い8時45分、男子二八七名、女子二八九名、計五七六名が元気よくスタートした。

私は、一斉スタートによる道路の混雑はどうか、雨の影響で体調を崩す者が多数出やしないか、路面が濡れてスリップ転倒したりしないだろうか。そして何より雨が本降りになつたらどうしようか、とスタートしたもの不安を抱えながら総務車を運転した。

しかしながら幸いにも私の心配は全くの杞憂に終わつた。生徒達は雨のおかげで逆に緊張感（危機感？）で気持ちが引き締まつたのか真剣な表情で全力疾走する者が多く、怪我人もほとんどおらず、昨年より距離が伸びたにもかかわらずほとんどの生徒が昨年と遜色ないタイムで帰ってきた（14時30頃全員帰校）。「根性」というと古い言葉と笑われそうだが、雨の中25kmも踏破するとなると「根」の「性分」が見えてくるものである。いつもにこやかで誰とでもしなやかに接している生徒が、たつた一人で顔をゆがめながら懸命にゴールを目指して走っている姿。昨年怪我で参加できなかつた悔しさを今年にぶつけて必死に走つてゐる姿等、彼らの「性分」を目の当たりにし、普段何と生徒の一面しか見ていないだろと、一日遠行が私に教えてくれた気が

する。また、担当としてのそれまでの準備や気苦労、草刈り等による疲労は彼らの姿を見ると一瞬で吹つ飛んだ。

最後になるが、イレギュラーであつたこの行事は、ご声援頂いた地域の方々や各給水ボイントで生徒の全力疾走を物心ともに支えて下さつたPTA役員の皆様、長時間最後まで立哨指導をして頂いた先生方等のおかげで無事終えることが出来た。感謝申し上げたい。そして来年度の「竹山ダム湖周回27kmコース」完全復活を期待し報告としたい。

楽しむ力／修学旅行雑感

二学年主任 大山 結花

三年前の修学旅行で、今回と同じ長野を訪れたときは、旅行前からワクワクしていた。初めてのスキー、初めての長野県、そして「牛に引かれて善光寺」の善光寺参り。どんな新しい世界が見えるのだろうと楽しみだつた。スキーは滑れるのかと不安だつたけれど、楽しみのほうが勝つていた。

長い移動距離でずっと座つてゐるのは大変だつたし、決してスキーが上手に滑れたわけでもない（どちらかというと転んでばかりで滑れないまま終わつた）。でも、充分に楽しい旅行だつた。

さて、今回は、というと実は存分に楽しめるという余裕はなかつた。まず、旅行前のスケジュールの調整。朝早く出発し、昼過ぎには鹿児島に帰り着くという限られた時間のなかでどのように生徒に楽しんでもらうのか？旅行会社の方にもいろいろ無理なお願いをした。「二日目、早く出発するからできれば温かい昼食を食べさせたい。スキーオの講習をたくさん受けさせて滑れる実感をもたせたい。食事はおいしくて安全なものを準備して欲しい。東京研修の時間をできるだけとれるように工夫して欲しい。……

実際、旅行に出てみても、思つてはいた通りにならないことが多い。皇居を見せてあげたくても大渋滞で、夕方までに無事に長野に着くためには見学を諦めざるを得ない。大勢が移動するから、時間差がどうしても生じてしまう。買ひ物をする時間も満足するほどにはとれない。帰りの羽田空港では間に合うのかとヒヤヒヤすることもあつた。

ああ、疲れた。

でも、やっぱりいろいろ新しい世界を見ることができた！ 旅行は時間をともにする人が大きく影響する。

これから受験期へと向かう二年生。しばらくは部活動と学習との両立で忙しく、それが過ぎると、今度は単調な勉強漬けの毎日が待つている。高校を卒業すると、さらに厳しい現実に直面するだろう。そんな生活の中でも、彼らなり、ささやかな楽しみをつけ、感謝する心を持ちながら過ごしていけるだろう。

私は、どうしては、そう確信できたことを実感した。

送迎してくださつた保護者、誘導や不在時の授業を変わってくださつた先生方、不在中に清掃等をしてくれた一・三年生の協力もありがた

学年の世話係として、参加する生徒たちがみんな、なんとか病気も怪我もせずに行きを楽しんでほしい。今回はその思いのほうが楽しよりもずっと勝つていたのだ。



かつた。みんなに支えられての旅行だ。

そして、一番の発見は、加治木高校の生徒は「楽しむ力」を持つているということだ。私の一番の心配事は、怪我をしたり、体調が悪くなったり、全体の行動に支障が起きるような事件が起ることだつたが、それは全くの杞憂に過ぎなかつた。しっかりと自己管理を行つてくれた（養護教諭の益山先生による部分も多いが）ところか、限られた時間のなかで、たいしたトラブルもなく、スキーオを仲間との会話を、自主研修を、それぞれ楽しんでいた。

この「楽しむ力」があるということは、とても大切なことではないか。誰しも自分が思うよな環境に必ず存在できるとは限らない。また、どんなに自由に見えて、社会の中に存在することでは何らかの制約がついてくるということである。その制約のある自分の置かれた環境の中で、「楽しむ力」を持つことは人生を豊かにしてくれるはずだ。

旅行後、生徒に書いてもらつたアンケートや感想に、殆ど不満は書かれてはなかつた（もつとゆつたりしたスケジュールを）等の提言はあつたものの）。大半の感想が、楽しかつたということ、旅行に関わつてくれた人々への感謝の言葉であつた。

これから受験期へと向かう二年生。しばらくは部活動と学習との両立で忙しく、それが過ぎると、今度は単調な勉強漬けの毎日が待つている。高校を卒業すると、さらに厳しい現実に直面するだろう。そんな生活の中でも、彼らなり、ささやかな楽しみをつけ、感謝する心を持ちながら過ごしていけるだろう。

加治木高等学校 第19回 一日遠行
2015年（平成27年）11月13日（金）実施

一日遠行は創立百周年（1997年 平成9年）
を記念して始まりました。

参加者：
1・2年生576名
(男子287名・女子289名)

距離：男女共に約25km

コース：
学校→龍門司坂→さえずりの森
→辺川公民館→竹山ダム

PTA保護者・役員協力：43名

私たち一年部の理事や有志の保護者は、さえずりの森給水所の担当でした。思いがけず生徒達のがんばりを二度も目の当たりにする事ができました。途中本降りとなり傘も必要な程でしたが、生徒たちの表情は明るく輝いており、応援する私たちが逆にパワーをもらい、終始笑顔で“おもてなし”をする事ができました。全員が大きながもなく無事にゴールできた事に感謝すると共に、準備、運営、応援等にご協力頂きました皆様に心より御礼申し上げます。

予報通り天候は雨。実施されるとの心配しましたが、出発時刻を早め、コースも変更して、第19回一日遠行がスタートしました。雨のため、苔むす石畳の龍門司坂は登らず、往復とも車

「一日遠行」を終えて

一日遠行

竹山ダム給水所



へがわ 辺川公民館前給水所



さえずりの森給水所



スタート

加治木高等学校



ありがとう 加治木高校

3月1日、第68回卒業生が、
羽ばたきます。
加治木高校での思い出や卒業に
よせる気持ちを4名の保護者の
方にお書きいただきました。

題字：梅島麻子先生（芸術科 書道）

卒業

2016
3.1



感謝

三年P 西 昭美

充実した三年間を過ごさせてもら
い、先生方には感謝の限りです。

特に部活においては、弓道部で優
勝するぞと勉強も頑張りながら日々
の鍛錬をしていました。残念ながら
達成できなかつたのですが、泣き笑
い、色々な経験をし、強くなつてい
るのを見ることができました。

人生は一度きりです。十年後、二
十年後、後悔だけはしない様に生き
ていってほしいです。

最後に、関わった全ての方々に感謝
します。加治木高校へ入学させて
貢献する娘を、笑顔で新生活に送り出
したいと思います。

PTA副会長を3年間務めて
くださいました。



弓道部の仲間たちと
顧問の安藤毅史先生、中村聰子先生



PTA副会長を3年間務めて
くださいました。



↑龍桜高校で
四高校PTA～
森真紀子先生
や理事さんと。
(2013年7月)

夢に向かつて

三年P 東 芳子

おかげ様で、八年間、三人の子ども達がお世話になりました。長女も次女も、加治木高校で学んだことでの自分があると、夢に向かつて精一杯突き進んでいます。

今春卒業の息子は、入学してから、いつも自分はここに来て良かったのだろうかと悩んでいました。そのせいか、一時、決めていた道をあきらめようとしていました。

そんな中、息子に再び決意させてくれたのが、デザインを頼んでくれ、励まし、出来上がった作品を褒めてくれた多くの友人たち、先生方、そして保護者の皆様でした。

それから息子は、夢に向かつてただ直ぐ歩く決心をし、今日も、白い画用紙に向かつています。

ありがとうございました。



感謝

三年P 山本 裕子

あこがれの加治木高校に入学でき
て喜びもひとしおだった三年前。ひ
たむきで、思いやりにあふれる友だ
とのふれあいのひとつひとつが心
から楽しく、学業面、人格面とともに
洗練されゆく仲間たちからは多くの
学びがありました。

なかでも、大自然の中、寝食を共
にした山岳部の先輩や仲間たちとは
厚い信頼で結ばれ、チームプレイの
奥深さ、命の大切さをかみしめるこ
とができました。猛暑の中、歯をく
いしばつて踏破した三年生夏の滋賀
県での全国大会は得がたい経験とな
り、顧問の福元先生をはじめ、学校、
保護者、地域の方々をあげてのご支
援には感謝のほかございません。

長女、次女、長男とお世話になっ
た七年間は、学校行事や部活動応援、
PTA活動に楽しく参加し、生徒さ
んたちの才能や活躍から、数え切れ
ないほどの感動と元気をもらいました。
先生方や保護者の方々との多くの
貴重な出会いもあり、充実した時
間を共に過ごせたことに心から感謝
しています。

加治木高校の校歌が好きです。行
事の度に大きな声で一緒に歌いました。
中でも県大会で勝利したときの
野球場での校歌は格別でした。

後輩の皆さん方が母校の新たな歴史
を作つていかれることを楽しみに、
これからも応援しています。



加治木高校 おお我等

三年P 宮田 美和

敬愛する加治木高校。私たち夫婦
の母校でもあります。校内に入ると
凛とした空気に背筋が伸び気持ちも
シャンとする。その雰囲気は少しも
変わっていません。かつてここで学
び、形成された人間美学は私自身の
人生の基礎になっています。

長女、次女、長男とお世話になっ
た七年間は、学校行事や部活動応援、
PTA活動に楽しく参加し、生徒さ
んたちの才能や活躍から、数え切れ
ないほどの感動と元気をもらいました。
先生方や保護者の方々との多くの
貴重な出会いもあり、充実した時
間を共に過ごせたことに心から感謝
しています。

加治木高校の校歌が好きです。行
事の度に大きな声で一緒に歌いました。
中でも県大会で勝利したときの
野球場での校歌は格別でした。

後輩の皆さん方が母校の新たな歴史
を作つていかれることを楽しみに、
これからも応援しています。



「下関係、大人との応対が大きな財産になる。もちろん君たちは勉強もそれなりにやつてきたはずだ。だからこそ、勉強よりも「人として」が必要なのだ。勉強はできて当たり前で、それにプラスして礼儀作法や対応力を備えていることが社会では求められるのだ。加治木高校は、その大事なことを教えてくれたはずである。

君たちには、自信をもつて旅立つてほしい。難しい時代を生き抜かなければならぬことは覚悟しなければならないと思う。だけど、ひとつずつ縁りあわせ、真摯に対処するだけだ。次の時代を創るのは君たちだから。

あなたの人生はあなたのもの。まず何をおいても、自分自身のために選択し決断すべきです。安心してください！眞の加治木高校生となつたみなさんの「自分のための決断」ならば、それと意識せずとも必ず世のため人のための決断になつていくはずですよ。

たのかどうかははずつとずっと後になつて初めてわかることがあります。わたし自身、後悔を覚える選択をいくつも経験しました。でもそんな決断を積み重ねてこそ今わたし自身があり、赤組との日を迎えたのだと思えば、どの経験も間違つていたとは思えないのです。

という意味だ。別れがあるから出会いがある。失敗があるから成功がある。回り道をしたから、気づくことができる景色もある。世の中のすべてのことには、無駄なことは何も無いと教えてくれる。長いランクも君たちと出会うための縁起だつたのだと思う。加治木高校は君たちにとつてどんな場所だつただろうか。自由な気風もあり、適度な理不尽さもある。この理不尽さに耐えることが、世の中に出たときに君たちの役に立つ。僕はいつも、「勉強よりも大切なも

五年ぶりの学級担任だつた。新鮮な気持
ちで君たちを迎えたのをよく覚えている。
でも入学式の日、初対面のロングホームル
ームはかなりグダグダだつた。個人的なこ
とだけれども、幼なじみと元同僚の子ども
たちを担任することになり、かなり動搖し
た。ずいぶん後になつて、世間は狭いとい
うことをさらに実感させられたりもした。
そうやつて出会つた君たちがもう卒業であ
る。

がんばれ

三年一組担任
眞方 雅彦

祝卒業！赤組諸君

三年三組担任 森園 隆志

部活動大会参加
及び入賞記録

| | |
|---|----------------------------------|
| △ | 自由形・50m 女子団体・200個人メドレー・50m平泳ぎ |
| △ | 100m背泳ぎ・50m背泳ぎ |

△ 美術部
県文芸コンクール 優秀賞 猪目奈菜（2年）
短歌部門
(H28全国総文祭出場)

50m平泳ぎ
△美術部
▽第2回
県文芸コンクール 優秀賞 猪目奈菜(2年)
短歌 H28全高

(出場文祭総國)